

< 関東信越 > 長野工業高等専門学校

*****断り*****

図や一部文章は当該高専 HP 及び当該高専が作成する資料より引用

長野工業高等専門学校 HP : <https://www.nagano-net.ac.jp/index.php>

*アクセス(図 1 は長野高専 HP より引用)

〒381-8550 長野市徳間 716

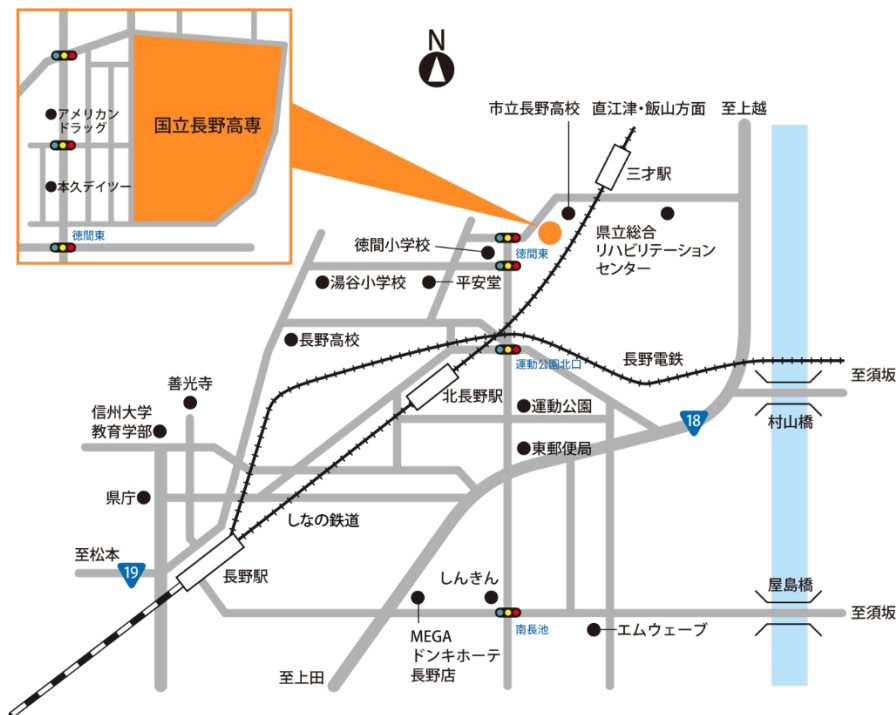


図 1 アクセスマップ

*特色 (一部文章は長野高専 HP より引用)

- ・昭和 38 年に開校
- ・本科は機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、電子情報工学科、環境都市工学科の 5 学科編成
- ・専攻科は生産環境システム専攻、電気情報システム専攻の 2 専攻編成
- ・1 年生と 2 年生では混合学級制を採用している。所属する学科の枠を超えたクラス編成がされており、人文科学・自然科学などの教養科目を共通に履修する。これらの科目を担当するのが一般科である。3 年生からは、専門学科に分かれて専門教育を重点的に受ける体制になっている。

*教育理念 (長野高専 HP より引用)

優れた技術者は、優れた人間でなければならない

*教育・運営方針（一部文章は長野高専 HP より引用）

- ・本校の教育理念に基づき、豊かな人間性と独創力、創造力を身に付けた実践的技術者を養成する高等教育機関としての教育体制を維持し、科学技術の高度化及び社会問題・グローバル化に対応し得る技術者を育成する。
- ・地域と連携し、地域に密着した学校運営を行う。また、地域から期待され、愛される学生を育成し、社会から要請されている高等教育機関としての使命を果たす。

*目標とする人材像（一部文章は長野高専 HP より引用）

- ・工学の基礎知識を備え、倫理観を持ち、自ら問題を発見し、技術的知識・技能を駆使して問題を解決していくことができる実践的技術者
- ・幅広い教養を備え、社会、環境等の諸問題に自ら関心を示し、リーダーシップを発揮して積極的に社会に関わっていく人材
- ・文化の多様性を認識し、自ら諸外国との交わりに関心を抱き、国際社会に貢献できる人材

*学習・教育目標（一部文章は長野高専 HP より引用）

（本科）

- (A)世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討論し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。
- (A-1)社会科学および人文科学に興味を持ち、関連知識を理解し身につけられる。また、自分自身と他人との関わりや価値観の相違について、理解できる。
- (A-2)健全な心身の発達について理解して行動でき、考えを述べることができる。
- (B)自然環境や社会の問題に関心をもち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養を持つ。（技術者倫理）
- (B-1)自然や社会の問題に関心をもち、技術が果たしてきた役割を理解し論述できる。
- (B-2)環境や社会における課題を理解し論述できる。
- (C)機械、電気電子、情報または土木の工学分野（以下「基盤となる工学分野」という。）に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。
- (C-1)数学、自然科学において、事象を理解するとともに、技術士第一次試験相当の学力を身につける。
- (C-2)工学に必要な情報技術に関するリテラシーを身につけ、利用できる。
- (D)基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる。
- (D-1)基盤となる工学分野において、事象を理解するとともに、技術士第一次試験相当の学力を身につける。

(D-2)基盤となる工学分野において、論理展開に必要な基礎問題を解くことができる。

(D-3)基盤となる工学分野以外の工学分野の基礎的な知識を身につける。

(E)科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力を養う。

(E-1)科学、技術、工学に関する情報を収集し、その適否を判断してまとめることができる。

(E-2)習得した知識や技能を課題に対して利用できる。

(F)具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討論できる能力を身につける。

(F-1)学習成果を文章、図等により表現できる。

(F-2)基盤となる工学分野において、必要な英語の基礎力を身につける。

(G)習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行する能力を身につける。

(G-1)自己の能力を把握し、その向上のために自主的に学習を遂行できる。

(G-2)実務訓練等を通じて基盤となる工学分野に関連した業務の概要を理解できる。

(専攻科)

(A)世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討論し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。

(A-1)社会科学および人文科学における興味ある事例について、また自分自身と他人との関わりや価値観の相違について、理解し論述することができる。

(A-2)健全な心身の発達について理解し考えを述べることができる。

(B)自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養を持つ。(技術者倫理)

(B-1)技術が自然や社会に果たしてきた役割を理解し、技術が環境や社会に及ぼす効果と影響について論述できる。

(B-2)環境や社会における課題に対して技術者に求められる役割や責任について論述できる。

(C)機械、電気電子、情報または土木の工学分野（以下「基盤となる工学分野」という。）に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。

(C-1)数学、自然科学において、技術士第一次試験相当の学力を身につけ、それを基盤となる工学分野で利用できる。

(C-2)基盤となる工学分野に必要な基礎的情報技術を習得し、学習成果の表現に利用できる。

(D)基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる。

(D-1)基盤となる工学分野において、技術士第一次試験水準の問題に対して解答までのプロセスを示すことができる。

(D-2)基盤となる工学分野において、習得した知識を問題解決のために応用できる。

- (D-3)基盤となる工学分野の知識や技能に加え、他の工学分野の知識を身につけ、これらの知識や技能を効果的に活用して、分野横断的な技術上の問題が解決できる。
- (E)科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力を養う。
- (E-1)科学、技術、工学および知的財産に関する情報を収集し、課題の解決に利用できる。
- (E-2)習得した知識や技能を活用して課題に対して自ら適切に対処し、得られた成果を評価することができる。
- (F)具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討論できる能力を身につける。
- (F-1)学習成果を文章、図等を用いて表現し、口頭で発表、討論ができる。
- (F-2)基盤となる工学分野において、学習の内容を英語で簡単に説明し、コミュニケーションを図ることができる。
- (G)習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行する能力を身につける。
- (G-1)自己能力向上のために自主的・継続的に学習し、その成果を提示できる。
- (G-2)学外の実習等を通じて習得した工学分野の知識や技能を活用して実践的業務を積極的に遂行できる。

*アドミッションポリシー(入学者受け入れ方針) (表1は長野高専HPより引用)
(本科)

表1 各学科のアドミッションポリシー

学 科 名	ポリシー
機械工学科	1. 中学校での教育を修めた人、またはそれと同等な能力のある人 2. 中学校などで学んだ数学及び理科に深い理解力・応用力があり、英語でのコミュニケーションに積極的な人 3. ものづくり、プログラミングその他の機械工学に関連する技術や研究に興味を持っている人、または機械工学を学んで地域や国際社会の発展に役立ちたいと考えている人
電気電子工学科	1. 中学校での教育を修めた人、またはそれと同等な能力のある人 2. 中学校などで学んだ数学及び理科に深い理解力・応用力があり、英語でのコミュニケーションに積極的な人 3. 電子工作や実験が好きで、電気エネルギー、エレクトロニクス、情報通信など電気電子工学に関連する技術や研究に興味を持っている人、または電気電子工学を学んで地域や国際社会の発展に役立ちたいと考えてい

	る人
電子制御 工学科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校での教育を修めた人，またはそれと同等な能力のある人 2. 中学校などで学んだ数学及び理科に深い理解力・応用力があり，英語でのコミュニケーションに積極的な人 3. 機械装置やそれを動かすための電気・電子，制御・情報工学に関連する技術や研究に興味を持っている人，または電子制御工学（機械工学・電気電子工学）を学んで地域や国際社会の発展に役立ちたいと考えている人
電子情報 工学科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校での教育を修めた人，またはそれと同等な能力のある人 2. 中学校などで学んだ数学及び理科に深い理解力・応用力があり，英語でのコミュニケーションに積極的な人 3. ものづくり，プログラミングその他の電子情報工学（電気電子工学・情報工学）に関連する技術や研究に興味を持っている人，または電子情報工学を学んで地域や国際社会の発展に役立ちたいと考えている人
環境都市 工学科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校での教育を修めた人，またはそれと同等な能力のある人 2. 中学校などで学んだ数学及び理科に深い理解力・応用力があり，英語でのコミュニケーションに積極的な人 3. ものづくり，プログラミングその他の環境都市工学（土木工学・建設工学・社会システム工学）に関連する技術や研究に興味を持っている人，または環境都市工学を学んで地域や国際社会の発展に役立ちたいと考えている人

（専攻科）

本専攻は，入学者として次のような人を広く求めている。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術，科学及び語学の素養のある人 2. 幅広い知識・技術の修得に意欲のある人 3. 先導的技術者として産業界で活躍し，社会に貢献する意思のある人 |
|---|

*入試形態

（本科）

推薦選抜、学力選抜、帰国子女選抜、4年次編入学

（専攻科）

推薦選抜、学力選抜、社会人特別選抜

*試験状況及び偏差値や倍率（令和2年度）（表2～7は長野高専HPより引用）

（本科 偏差値65）

表2 各学科の募集人員

学 科	募集人員	
機 械 工 学 科	40	合計 200名 ※ 推薦による選抜の募集人員は、各学科とも募集人員の5割程度とします。
電 気 電 子 工 学 科	40	
電 子 制 御 工 学 科	40	
電 子 情 報 工 学 科	40	
環 境 都 市 工 学 科	40	

表3 各学科の推薦選抜志願状況

学 科	志願者数	受検者数	合格者数	倍率
機 械 工 学 科	16	16	16	1.0
電 気 電 子 工 学 科	19	19	19	1.0
電 子 制 御 工 学 科	32	32	21	1.5
電 子 情 報 工 学 科	41	41	23	1.78
環 境 都 市 工 学 科	30	30	21	1.4
計	138	138	100	

表4 各学科の学力選抜志願状況

学 科	志願者数	受検者数	合格者数	倍率
機 械 工 学 科	46	46	26	1.77
電 気 電 子 工 学 科	48	48	22	2.18

電子制御 工学科	30	30	20	1.5
電子情報 工学科	49	49	18	2.72
環境都市工 学科	29	29	20	1.45
計	202	202	106	

※ 第2志望学科への合格者については、志願者数、受検者数を共に当該学科へ移行。

(専攻科 偏差値不明)

表5 各専攻の募集人員

専攻名	定員
生産環境システム専攻	12
電気情報システム専攻	8
合計	20

表6 各学科の推薦選抜志願状況

専攻名	志願者数	受験者数	合格者数
生産環境システム専攻	13	13	13
電気情報システム専攻	6	6	6
合計	19	19	19

表7 各学科の学力・社会人特別選抜志願状況

専攻名	志願者数	受験者数	合格者数
生産環境システム専攻	12	10	6
電気情報システム専攻	10	9	5
合計	22	19	11

*ディプロマポリシー(卒業・修了認定方針)

(一部文章及び表8、9は長野高専HPより引用)

(本科)

目標とする人材像と各学科の人材養成上の目的に即して、自ら問題を見つけ解決することができるよう主体的学習に取り組み、以下に示す能力等を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

- | |
|---------------------------------|
| 1. 工学全般にわたる基礎学力、応用力および人文社会科学の素養 |
| 2. エンジニアリングデザインの基盤となる能力 |
| 3. グローバル化への対応能力 |

上記に加え、各学科において身につけるべき能力を表8に示す。

表8 各学科を卒業するにあたって求められる能力

学 科 名	各学科において身につけるべき能力
機械工学科	機械工学に関する設計、製作、計測などものづくりに必要な知識・技術
電気電子工学科	電気電子工学におけるエネルギー変換、エレクトロニクスおよび情報通信に関わる各分野の知識・技術
電子制御工学科	電子制御技術に関する機械工学分野、電気・電子工学分野および制御・情報工学分野の知識・技術
電子情報工学科	電気電子工学、情報工学に関するハードウェア・ソフトウェアの知識・技術
環境都市工学科	環境都市工学（土木工学・建設工学・社会システム工学）に関するまちづくり・社会基盤デザインの知識・技術

(専攻科)

目標とする人材像と各専攻の人材養成上の目的に即して、自ら問題を見つけ解決することができるよう主体的学習に取り組み、以下に示す能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

- | |
|---------------------------------|
| 1. 理工学分野における、より専門性の高い知識・技術力 |
| 2. エンジニアリングデザインの基盤となる能力、チームワーク力 |
| 3. グローバル化への高い対応能力 |

上記に加え、各専攻において身につけるべき能力を表9に示す。

表9 各専攻を修了するにあたって求められる能力

専攻名	身につけるべき能力
生産環境システム専攻	機械・電子制御，生産システムまたは土木・都市環境に関連するより深い専門知識・技術力および知能機械装置，製造システム，社会基盤の整備等の幅広い分野に柔軟に対応できる能力
電気情報システム専攻	エレクトロニクス，情報通信，電力に関連するより深い専門知識・技術力および電気電子機器，電子デバイス，電子通信システム，計算機・情報システム等の幅広い分野に柔軟に対応できる能力

*カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）（一部文章及び表 10、11 は長野高専 HP より引用）

（本科）

ディプロマポリシーを達成するために，以下のカリキュラム・ポリシーに則り，教育課程を編成する。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 理数系基礎科目および人文社会系の教養科目を低学年に，工学系科目を高学年に配置する。 2. 実践的な問題解決型学習，アクティブラーニングによる学習，実験実習，卒業研究などを通じて，課題の発見能力，解決能力および論理的に表現する能力を育成する授業科目を編成する。 3. 異文化を理解し，コミュニケーション力を育成する授業科目を編成する。 |
|---|

上記に加え，各学科のポリシーを表 10 に示す。

表 10 各学科のカリキュラム・ポリシー

学科名	ポリシー
機械工学科	機械工学に関する基礎的な知識・技術が修得できるよう，基礎科目ならびに設計製図，工場実習，工学実験などの実験，実習および実技科目をバランス良く編成する。
電気電子工学科	電気電子工学に関する基礎的な知識・技術を修得できるよう，基礎科目ならびに電気電子工学実験，電気工事士セミナー，電気電子製図などの実験，実習および実技科目をバランス良く編成する。

電子制御 工学科	機械工学，電気・電子工学および制御・情報工学に関する基礎的な知識・技術が修得できるよう，基礎科目ならびに工学実験実習などの実験，実習および実技科目をバランス良く編成する。
電子情報 工学科	電気電子工学および情報工学に関する基礎的な知識・技術を修得できるよう，基礎科目ならびに工学実験実習，情報処理演習などの実験，実習および実技科目をバランス良く編成する。
環境都市 工学科	環境都市工学に関する基礎的な知識・技術を修得できるよう，基礎科目ならびに実験実習，設計製図などの実験，実習および実技科目をバランス良く編成する。

(専攻科)

ディプロマポリシーを達成するために，以下のカリキュラム・ポリシーに則り，教育課程を編成する。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. より専門性の高い知識・技術内容の修得を目的として，理工学分野の科目を設定する。 2. 設計，開発における具体的な体験・学習を目的として，学外での実習等の関連科目を設定する。 3. 学際的素養が身につくよう国際社会に通用する外国語，歴史，技術者倫理等の科目を設定する |
|---|

上記ポリシーに加え，各専攻のポリシーを表 11 に示す。

表 11 各専攻のカリキュラム・ポリシー

専攻名	ポリシー
生産環境 システム専攻	より高度な幅広い技術内容を修得するために，生産・建設システム関連科目，材料・設計関連科目およびエネルギー・環境システム関連科目を設定する。
電気情報 システム専攻	より高度な幅広い技術内容を修得するために，電気・情報・生産システム関連科目およびエネルギー関連科目を設定する。

*JABEE 認定プログラム (一部文章及び図 2 は長野高専 HP より引用)

2003 年度に「産業システム工学プログラム」を設定。本プログラムの位置づけは図 2 に示すとおりである。また，本プログラムが対象とする学年は，大学生と同年代である本科 4 年次から専攻科 2 年次の 4 年間である(この 4 年間で順次プログラム 1 年次、・、プログラム 4 年次と称することにする)。尚、高等専門学校は、もとより 5 年一貫の高等教育機関であり、その特性から本科 3 年次の科目の一部も、プログラムの対象科目とした。ただし、本科

3年次の科目は後述のプログラム修了要件には含めない。

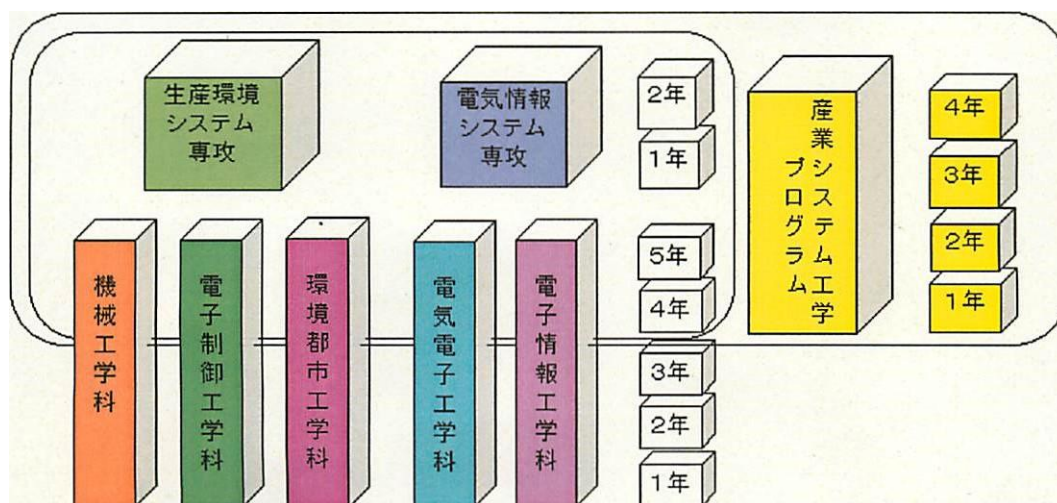


図2 本科と専攻科の体系および本プログラムの位置付け

・本プログラムの基本的な概念

本プログラムは、機械、電気電子、電子制御、電子情報、環市の各学科において、本科 4年次、5年次(プログラム1年次、2年次)に、主として基盤となる工学分野の基礎知識や技能を身に付けさせた後、専攻科1年次および2年次(プログラム3年次、4年次)では、生産環境システム、電気情報システムの複合的な分野における高度な専門教育を行う。

本プログラムでは、以下に示す知識・能力を有した即戦力のある実践的技術者の育成を目指している。

1. プログラム履修生各自の基盤となる工学分野(機械、電気電子、情報または土木の工学分野)の基礎的な知識・技術・能力を身に付けている。
2. 基盤となる工学分野以外の他の工学分野の基礎的な知識を身に付けている。
3. それらを融合複合して、自ら発見した問題の解決に活用し、それに対処するための業務を自主的・継続的且つ組織的に遂行できる。
4. さらに、技術者として必要な能力(調査能力、課題解決の発想・企画・計画能力[創造性]、プレゼンテーション能力、自主的継続的業務の実践能力、報告書などにまとめる能力)を有する。

・関連する他の教育プログラム(関連学科、関連コースなど)との関係

本プログラムは本科4年次、5年次(プログラム1年次、2年次)と専攻科1年次、2年次(プログラム3年次、4年次)からなり、専攻科に入学する全学生がプログラム登録生となる。

・カリキュラム上の特色

本プログラムでは本科4年次、5年次(プログラム1年次、2年次)において、主として各学科における基盤となる工学分野の基礎知識や技能を学び、専攻科1年次、2年次(プログラム3年次、4年次)において、より深く専門を学ぶとともに、基盤となる工学分野以外の科目の履修を通じて広い視野を持つ技術者を育成している。

また、専攻科1年次(プログラム3年次)後期14週を充てる長期の学外実習では、民間企業や官公庁と密に連携をとり、事前の訪問や打ち合わせによりミスマッチのないよう配慮した上で実習が行われている。このように専門教育を受けた後に実務経験を経ることにより、技術者としての自覚と意欲を持って専攻科2年次(プログラム4年次)の学習に取り組むことができ、職業人として、また技術者として質の高い人材を育成できるカリキュラムとなっている。

・その他の特色

(1)本校では、本科1年次、2年次において学科によらないクラス編成(混合学級制と呼んでいる)とし、本科の3年次以上では学科によるクラス編成を採用している。混合学級制は後述する全人教育の理念を具体化するための施策であり、多くの効果がもたらされた(長野高専自己点検評価報告書第4報に詳述)。

また、担任制を採用しているため、定員40名の本科学生に対してきめ細やかな指導体制となっている。専攻科1年次、2年次(プログラム3年次、4年次)においては、2専攻合わせて20名定員である。専攻毎に専攻長が充てられており、学生一人ひとりとのコミュニケーションがとられている。

(2)本科は5年間の一貫教育であり、若い学年から専門科目が導入され、学年進行とともに科目が増大する、いわゆるくさび型カリキュラムが採用されている。これにより、学習・教育目標に沿った学習が行われ、本科5年次(プログラム2年次)に就職または進学を選択することが可能になっている。また、専攻科1年次(プログラム3年次)入学時にそれまでの学習成果、達成度の確認が行われる。

(3)地域共同テクノセンター、長野高専技術振興会における対外的活動を通じた地域との結びつきの強さ、これら活動の場における同窓生との連携による活発な技術交流活動も大きな特色の一つである。学生は、技術講演会や講習会などへの参加を通じて、産業界の動向に触れるとともに、技術者としての意識の向上が涵養される。

(4)教育理念としての人間性教育を具体化するため、知・徳・体にバランスの取れた教育を目標としている。このために、一般科目をバランスよく配置するとともに、本科4年次(プログラム1年次)で「倫理学」を、専攻科2年次(プログラム4年次)で「倫理学特論」を必修として課している。

(5)長期の学外実習については上記4で述べたとおりであるが、本科4年次(プログラム1年次)でもインターンシップ(「実務訓練」)に積極的に取り組んでおり、実務訓練の前

後に、企業関係者を交えた説明会や報告会を実施するなど、キャリア教育を充実させている。

* 卒業後の進路状況(令和元年度) (一部文章及び表 12 は長野高専 HP より引用)

表 12 令和元年度卒業生の進学状況

高専専攻科

長野高専 専攻科	28
----------	----

国立大学

長岡技術科学大学	12	新潟大学	7	信州大学	6
豊橋技術科学大学	5	山梨大学	5	電気通信大学	4
金沢大学	3	群馬大学	2	千葉大学	2
東京農工大学	2	電気通信大学	2	東京農工大学	2
富山大学	2	室蘭工業大学	1	秋田大学	1
山形大学	1	埼玉大学	1	横浜国立大学	1
東京工業大学	1	岐阜大学	1	名古屋大学	1
名古屋工業大学	1	三重大学	1	九州大学	1

公立大学

公立諏訪東京理科大学	1
------------	---

私立大学

工学院大学	1
-------	---

その他

東邦学園映画専門学校	1	進学準備	2
------------	---	------	---

・令和元年度卒業生(学科別)の就職状況

機械工学科 ※()内は人数

JAL エンジニアリング、株式会社Mテック、アスザックフーズ株式会社、オリオン機械株式会社、キヤノンメディカルシステムズ株式会社、コトヒラ工業株式会社、株式会社鈴木、セイコーエプソン株式会社、株式会社竹内製作所(2)、株式会社ディスコ、長野オートメーション株式会社、株式会社日産オートモーティブテクノロジー、日本電熱株式会社、株式会社ファナック、株式会社前田製作所、株式会社ミマキエンジニアリング、防衛省航空自衛隊

電気電子工学科 ※()内は人数

アイ・システム株式会社、アルティメイトテクノロジーズ株式会社、上田日本無線株式会社、エムケー精工株式会社、関西電力株式会社(2)、サントリープロダクツ株式会社、ダイキン工業株式会社、中部電力株式会社(2)、株式会社都筑製作所、東京電力フュエル&パワー株式会社、日本貨物鉄道株式会社 関東支社、八十二システム開発株式会社、東日本旅客鉄道株式会社(JR 東日本)、東京電気システム工事事務所、株式会社フクザワコーポレーション、マルコメ株式会社、リオン株式会社、一般財団法人中部電気保安協会、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

電子制御工学科

株式会社エジソン、川崎重工業株式会社、コトヒラ工業株式会社、サクラ精機株式会社、ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社、日本車輛製造株式会社、日本ハルコン株式会社、パナソニック株式会社 オートモーティブ社、森永乳業株式会社 松本工場

電子情報工学科

株式会社 JR 東日本情報システム、株式会社 TBS テックス、アイ・システム株式会社、株式会社アウトソーシングテクノロジー、アスクル株式会社、株式会社アテック、エヌ・ティ・ティ エムイー株式会社(NTT-ME)、エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社(NTT コムウェア)、株式会社オリジナルソフト、京セラコミュニケーションシステム株式会社、コナミホールディングス株式会社、株式会社電算、東日本旅客鉄道株式会社 (JR 東日本) 長野支社、株式会社メンバーズ、株式会社ラック、日本放送協会(NHK)

環境都市工学科 ※()内は人数

ANA ラインメンテナンステクノクス株式会社、JFE シビル株式会社、エヌ・ティ・ティ・インフラネット株式会社(NTT インフラネット)(2)、大井建設工業株式会社、株式会社鴻池組、通信土木コンサルタント株式会社、東海旅客鉄道株式会社(JR 東海)(2)、東京電力ホールデ

ィングス株式会社、中日本高速道路株式会社(NEXCO 中日本)、株式会社長野技研、東日本旅客鉄道株式会社(JR 東日本)、長野支社(2)、ヒロセホールディングス株式会社、株式会社フジ技研、三井住友建設株式会社、株式会社本久、長野県林業コンサルタント協会、国土交通省関東地方整備局(2)、東京都庁、長野県庁、長野市役所、松本市役所

専攻科

DMG 森精機株式会社、JR 東日本コンサルタンツ株式会社、YKK 株式会社、株式会社アドヴァンスト・インフォメーション・デザイン、株式会社大林組、株式会社奥村組、山洋電気株式会社、ジェイ・アール・シー エンジニアリング株式会社、新日本設計株式会社、セイコーエプソン株式会社、ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社、株式会社大気社、株式会社千代田コンサルタント、株式会社電算、東海旅客鉄道株式会社(JR 東海)、東京エレクトロン株式会社、日新電機株式会社、日本工営株式会社、八十二システム開発株式会社、パナソニック・タワージャズセミコンダクター株式会社、東日本旅客鉄道株式会社(JR 東日本) 長野支社、富士電機株式会社、株式会社リンクス、長野県庁